

**【愛され祝福されるべき子供】**

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

本日聖書箇所: マルコの福音書10章13-15節

今週の御言葉: マタイの福音書18章10節

愛する教会の家族のみなさん！一週間も主の平安の中お元気で、過ごされましたか。

6第一週目の主日礼拝へおいで下さったクリスチャンプレイズチャーチの全家族のみなさんを主の御名によって心から歓迎致します！本日から教会での礼拝が中心となり、コロナ予防を徹底的する為、1部2部礼拝に分散して行い捧げることになります。もちろん、体調が悪い方々が、礼拝の参加が難しい事情を持っている方々へ配慮の為に、2部礼拝の時には、オンライン礼拝も同時に行いますが、オンライン礼拝の時とは違って、教会で礼拝を捧げる方々が礼拝に集中できるように、ほぼカメラを肯定した状態で送信してありますので、自宅で礼拝を捧げる方々もどうぞご理解を宜しくお願い致します。

同時に午後2時から、アワナの幼稚部のカビーズがまだオンラインで、教会で1時半からは、アワナ小学部(スパックス・T & T)が礼拝堂で行い、ユースのJVは、まだ工事のすべての完了明後日となりますが、今日から3階で再開致します。参加する先生たちや子供たち、学生たちみんな是非3密を避けつつ、検温実施、マスク、消毒剤と、フェイスシールドを利用しながら、参加しましょう。

まだ、コロナが完全に終息されてないのに、アワナを教会で再開するのに、まだ早いのではないのか、不安を覚えている方々もいらっしゃることをよく理解しております。

しかし、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今の世の学校や教育も、今の状況を知りながらも、オンラインでの子供教育の限界を認めつつ、やっぱり知識だけの教育では多く欠けているのをご存じなので、色々な危険に最大限予防しながら、学校と教室の現場で、先生と共に対面授業や学校生活を通して、得られる人格教育、社会性に関する教育、情緒的な教育を大事に行おうとしているでしょう。わたくしは、教会での子供の為の信仰の教育、聖書の教育は、世の教育よりはるかに大切だと確信しております。アワナ教育は、教会や牧師の為では決してありません。神様から我らに授けられている宝のような子供たち一人一人の為に、どんなに費用がかかっても喜んで仕えて行きたいと願っております。この機会に、我らの教会の全アワナの先生の方々にも、心から敬意と尊敬を払います。コロナがまだ残されていても、関係なく、何の報酬もないのに、自ら教会の子供たち一人一人の為に、喜んで仕えて下さろうとされる先生方々お一人お一人(カビーズの福井先生ご夫婦、マリン先生、金澤先生/小学生部の小助川先生、桶本先生、熊谷先生、久富先生、箕輪先生、棚橋先生、メイナ先生、事務の有里先生/JVのスギヨ先生、剣先生まで総14人)の先生たちの愛と献身があるがゆえにCPCの子どもたちは、大きくなっても、信仰から離れた子供たちが信仰から離れた子たちはいなく、みんな信仰によってよく育まれている幸いな子供たちではありませんか。

是非、我らの子どもたちが、これからさらに神の御言葉によって祝福され、主の教会の中で健やかに成長して生けるように、まず、アワナの先生たちの為に是非お祈り下されば幸いです！！

本日再開された主日礼拝は特に、「今年の子供祝福礼拝」として捧げています。

今日も礼拝中に臨在される聖霊の神様が、みなさんの子供たちの上、特に我々のクリスチャンプレイズチャーチにかよっている子供たちの上に豊かな祝福と力と知恵を与えて下さって世の中で、尾とさせず、みんなかしらとさせ、信仰の大物とさせていただきますように心から主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

子供の主日を迎えたからではなく、今こそ、教会がもっと子供たちを歓迎し、暖かい関心を持たなければなりません。子供たちがいない社会、国、教会とは未来を明るく夢見ることができません。それは現代今の社会の要求以前に、当時イエス様の時代、社会の中で一番無視され、ほったらかされていた弱者だった子供たちに対してだれより、われらの主イエスキリストがすでに子供たちを歓迎され、子供の存在の大切さをみんなによく教えて下さった事を、我らは聖書を通して知ることが出来るからです。

<1. 今日の日本の子供たちの現実と状況>

今年、特にコロナウイルスの為、家で自粛時間が多くなり、お仕事も家でテレワークの時間が増えることにより、一番家庭の中の問題と言え、虐待の問題であることをみなさん、よくニュースなどで耳にしていると思います。

子ども虐待とは「何も悪くないのに長期間にわたって子ども自身に、耐え難い苦痛を感じさせること」ということですが、特に日本で虐待死の統計の報告は年間50件を超え、1週間に1人の子どもが命を落としている状態が続いている中で、さらに深刻になっています。

虐待(ぎゃくたい)とは、自分の保護下にある者(人、動物等)に対し、長期間にわたって暴力をふるったり、日常的にいやがらせや無視をするなどの行為を行うことを言います。一言に虐待といっても、対象や種類は様々である。英語の"abuse"は「濫用」という意味だが日本語に翻訳する時その言葉が指していた虐待(や酷使)を使う事になっています。

虐待には法律的に4つの場合があります。身体的虐待、性的虐待、ネグレクト(無視、育児放棄、監護放棄)、心理的虐待があります。*身体的虐待: 児童の身体に痛みと苦痛が生じ、または外傷の生じるおそれのある暴行を加えることです。行為

は殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせるなどで、「一方的に暴力を振るう(殴る、蹴る、叩く)」、「外傷がなくとも継続的に痛みを与える(食事を与えない、冬は戸外に締め出す、部屋に閉じ込める)」に分けられます。

* **心理的虐待**:言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子供の目の前で家族に対して暴力をふるう(DV)などの行為のことで、児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うことで、児童の健全な発育を阻害し、場合によっては心的外傷後ストレス障害(PTSD)やうつ病、アダルトチルドレンなど、重大な精神疾患の症状を生ぜしめるため禁じられています。言葉の暴力、一方的な恫喝、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為などが含まれています。

* **ネグレクト**:「病気になっても病院に受診させない」、「乳幼児を暑い日差しの当たる車内への放置」、「食事を与えない」、「下着など不潔なまま放置する」、「(幼稚園、保育園、保育所、学校への)通学を行わせない」などで、家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かないことも含まれています。

* **性的虐待**:子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にするなどです。

日本の児童虐待相談件数は毎年増加している。虐待されている問題の一番注目すべき問題点は、虐待をする者は、62.8%が実母(じつぼ)、22%が実父(じつぷ)、義父・義母は合わせて8.3%です。子供たちの虐待の問題の約8割以上が親によるものである事が分かります。

<ところが、みんな！4月1日から改正され実施されている法についてご存じでしょうか。>

コロナウイルスがすべてのニュースを食い荒らしてしまい、そこまでは気づかなかったかも知れません。

それは「改正された児童虐待防止法」であります。

それは、昨年6月19日、国会で改正法案が可決と成立され、今年4月1日実施となった「児童虐待防止法(親権者等による体罰の禁止(令和2年4月1日施行)児童の親権を行う者は、児童のしつけに際して、体罰を加えることその他民法(明治29年法律第89号)第820条の規定による監護(かんご)及び教育に必要な範囲を超える行為により当該(とうがい)児童を懲戒(ちようかい)してはならないこと。(児童虐待の防止等に関する法律(平成12年法律第82号。以下「虐待防止法」という。)第14条第1項関係))」のことで、分かりやすく一言でいえば、もう日本では親が「子供(児童)のしつけに際して体罰を加えてはならない」、すなわち、もう親の体罰が禁止されるようになったということです。

例え、親が子供に3回注意してもいうことを聞かないので、頬(ほお)を叩く、大切なものにいたずらをしたので、長時間正座させる、友達を殴ってけがをさせたので、同じように殴るとか、他人の物を盗んだので、罰としてお尻を叩く、宿題をしなかったので、夕ご飯を与えないなど全部体罰に当たり、禁じ内容に当たるようになっています。

しかし、厚生労働省の指針案によると、「罰の目的ではない行為は体罰に当たらない」、つまり、「道に飛び出しそうな子供の手をつかむ」、「他の子供に暴力を振るうのを制止する」など、罰を目的としていない行為は、体罰に当たらない？と

しています。

* **体罰(Corporal punishment in the home)**:私的に罰を科す目的で行われる身体への暴力行為である。

* **しつけ(child discipline)**:人間社会、集団の規範、規律、礼儀など慣習にあった立ち振る舞いができるように、訓練する事。

(やるべきこととやってはいけないこと、ルール、マナーなど身に着けられるように訓練する事)

<厚生労働省による体罰の指針案によるば、体罰をしない防止について>

しつけと体罰がどう違うのか？セーフ・ザ・チルドレン・ジャパンの調査によると、しつけのために体罰を必要だと思っている人は日本では約6割に上っている統計がありますが、実はしつけと体罰に線を引くことがとても難しいとよく言われています。厚生労働省が出した提案の内容の中では、しつけとは、こどもの人格や才能等を伸ばし、自律した社会生活をおくれるようにサポートしていくことなので、そのためには、体罰ではなく、どうすればよいのかを言葉や見本を示すなど、本人が理解できる方法で伝える必要がある。(しつけ=体罰=虐待？曖昧)

①子供の気持ちをよく受け止める、②~③子供なりにきかないにもいろいろな理由と考えや子供たちの成長、発達によっても異なることもあるので子供の気持ちや考えに耳を傾けよう④こどもの状況に応じて身の周りの環境を整えて見る。⑤注意方向を変えたり、こどものやる気に働きかけて見る⑥肯定文で分かりやすく、時には一緒に、お手本に親がなる⑦良いことをしたらすぐに具体的にほめるなど提案している。

もちろん、上の内容で分かりやすい内容もありますが、とても抽象的で、実際家庭の中で、親子の関係の中で、より具体的な基準が見いだされず、とても親として混乱し、難しい内容であるでしょう。虐待と暴力的な体罰については当然反対でやってはいけないですが、親たちは、今も、しつけと体罰の線を引くことが実際とても難しくなって、子供を家でどう育つべきなのかむしろ、自身を失いそうかも知れません。だからこそ、本当に親に、大人に、子どもたちにも神の知恵と聖書の明確な変わらない基準が常に必要な今の時代になっているのではないのでしょうか。

愛する、聖書はどう教えているのでしょうか。

聖書には、マタイの福音書18章5、10節には「また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、私を受け入れるのです。あなた方は、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。」と書かれています。

<2. 子供たちからも学べることがあります！子どもたちは天国に入れる人の見本です。>

マルコの福音書10章の本文はみなさんもよくご存知であるイエスキリストが子どもたちを祝福して下さったあの有名な御言葉です。

ある親がイエス様をさわっていただくとして、イエス様と出会うため自分の子供たちを、大勢の群衆の中かき分けてみもとに連れて行こうとしました。その親はイエスキリストが自分の子供たちに一言でも祝福の言葉を語って下さるように切に求めています。

ちょうどその時、イエス様は自分の御教えをよく疑っていたパリサイ人たちと大人の結婚と離婚についての深刻なお話中でした。弟子たちは集中し、緊張感が高まっていた時でした。イエス様の御教えのテーマも子供たちが聞くのにふさわしくないと思ったかも知れません。しかし、その親たちはきつとかなかイエス様の祝福を受けるチャンスを見逃したくなかったので、自分の子供たちをイエス様のもとに連れて行って祝福を受けようと根気よく願っていたようです。しかし、イエス様のところに近づいて来ている姿を見た弟子たちは見て怒りながら、彼らを止めさせながら叱ります。弟子たちは子供たちの親たちと子供たちに“近づくな！子供たちがいるところじゃない。もう子供たちうるさいな！今、イエス様はかなり忙しいから妨げにならないように連れて行け！”と言ったかも知れません。ところが、イエス様は弟子たちの怒っている声を聞いて、かえて弟子たちを憤りながら、すぐさま焦点をパリサイ人たちから子供たちとその親たちほうに変え、向けられました。そして、イエスキリストは腰をかがめてその子供たちをだき、主のひざの上に座せました。そして、イエス様は弟子たちとパリサイ人たち、そしてイエスキリストの御言葉を聞くために集まって来た群衆たちに向かってこう語られました。

マルコの福音書10章14節に「子供たちを、私のところに來させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちの者です。」その後イエスさまは子供たちを抱き、彼らの頭の上に手をおいて祝福して下さった(16節)と記録されています。

子供たちの存在は決して邪魔者ではありません！そのように扱ってはいけないのに、今日、残念ながら、家庭でも、教会ですら、

子供たちがそのように扱われているのは少ないではありませんか。

我らの教会で、実は、イエス様が子供たちを温かく迎え入れ、その子供たちの為に祝福されたことを通り、実践しているところがあるでしょう。オリーブブlessingを通して、我らの牧場でまず、イエス様が今日されたように子供たちに心を向けさせ、祝福を心から祈る場が牧場であり、そう思うと、牧場の存在がもっとも大切で、本当に感謝しています。

愛するみなさん！この出来事を通してイエス様は今日私たちに子供にどう接するべきなのか、どうすれば子供たちに愛が伝わるかその方法を教えて下さっています。アメリカでベストセラー「愛を伝える5つの方法」のシリーズの著者であり、マリッジ・アンド・ファミリー・ライフコンサルタント社の取り締まり役であるゲーリー・チャップマン博士は夫婦の間にも、そして、子供たちにも愛を伝えるためには子供たちには各自違う必要で、感じ伝わる愛の言葉がそれぞれあることを指摘しています。

<3. 子供たちに伝わる愛の言葉>

① 愛の言葉:スキンシップ

そしたら、そんな大切な子供たちに愛が伝わっているのでしょうか。コロナのせいで仕方ないですが、残念ながら、人との間で一番失ってしまっている愛の言葉、それはスキンシップがあります。

実はスキンシップの重要性は、近年に始まったことではありません。紀元1世紀のパレスチナに在住(ざいじゅう)のヘイスラエルの人たちは、イエス様に「さわっていただくとして」子供たちをイエス様のもとに連れて来ました。しかし、今日の本文ではその時、イエス様の弟子たちは親たちを叱ったと記録しています。弟子たちは、イエス様はほかのもっと重要なことで忙しくて、子供たちとかかわる暇などないはずだと思ったのです。しかし、イエス様は却って憤(いきどお)られました。『『子供たちを、わたしのところに來させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。』そして、イエス様は子供たちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された』とあるとおりです。』(13節-16節)

イエス様は短い時間の中で子供たちを祝福しながら、彼らの頭の上に御手を置いてつまり、スキンシップをしながらご自身の愛と祝福を注いで下さったことを今日我らも覚える必要があります。何のスキンシップのないため、子供たちは、愛を感じられず、とても寂しがるときがあります。どんなプレゼントよりも、ある子供たちにとっては、親のスキンシップを通して、自分が愛されているのをすぐ、強く実感する場合があります。

ある子供は愛の言葉として、スキンシップで愛をよく、深く感じられます。

スキンシップは愛の言葉の中でも、最も簡単に無条件に用いることができるのです。親が子供に触れるのに、特別な機会や理由など必要ありません。親は、スキンシップによってほぼいつでも子供の心に愛を届けることができます。スキンシップという愛の言葉はハグみたいに限ったものではなく、あらゆる種類の体の触れ合いが含まれます。例えば忙しいときでも、子供の背中や肩や腕などに優しく触れることはできるのではないのでしょうか。

スキンシップは幼い子どもから特に必要です。スキンシップは最も大きな愛の声の一つです。「愛してる！」と叫びであります。今はまだ、コロナウイルスのある時期なので、なるべく、教会で、特に他の子供たちへのスキンシップはしばらく自制しましょう。しかしながら、みなさんの家庭で、是非みなさんの夫にも、妻にも、子供たちにもスキンシップという愛の言葉を使って見て下さい。

拒否したり、嫌がる反応の理由は、それほど、今までみなさん自身がスキンシップをしなかったことのサインですから、小さ

なことから始めれば、良いと思います。

② 愛の言葉(祝福の言葉、具体的な肯定的な言葉、愛情を表す言葉、賞賛の言葉、励ましの言葉など)を使うこと

以前夜うちの子供と車でドライブしながら聞いて見ました。スキンシップやプレゼント、あるいは一緒に時間を過ごすこと、あるいはやさしい言葉とか賞賛の言葉の中でどちらがほしいのかと聞いたとき、意外とプレゼントとか、何かの物ではなく、賞賛や肯定的な言葉がもっとほしいという風に聞きながら、私自身反省したことがあります。あんまりにも、子供たちに自分が厳しくしゃべるばかりだったのではないのかと。うちの子供の場合は、どんな時よく愛を感じるタイプなのかよく知ることができたのです。夫婦の間にも同じですが、子供たちはそれぞれ自分がよく愛を感じたり、愛がよく伝わって来る愛の方法が実はそれぞれ違うことに、大人のみなさんは気づく必要があります。

その中で意外と子供たちは親や大人から愛情を表す言葉、勇気を組み込む言葉、賞賛の言葉、励ましの言葉などを求めていることを覚えなければなりません。今日イエス様もただのスキンシップで終わったのではなく、子供たちの上に手を置いて祝福されたと書かれています。つまり、こどもたちに祝福の言葉で祝福されたということです。そのイエス様の祝福の言葉にはきっと子供たちの存在に感謝し、賞賛と励ましの愛情深い言葉で祝福されたでしょう。民数記6章24-26節のような御言葉を引用されたかも知れません。『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。:26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安をあえられますように』

神様はモ-セに仰せられアロンとその子らに祝福する時、このように祝福しなさいと言われた内容です。

みなさんは最近自分の子供たちや教会の子供たちに、このように祝福したことがありますか。いや実は毎日子供たちが学校へ行く前、夜寝る前でもこのように祝福を祈る言葉を伝えるべきでしょう。

以前も紹介しましたが、イスラエルの大事な教育方法の中ではかならず親が自分の子供たちが学校に行ったり、出かける時、食事を食べる前に、お父さんが子どものために祝福の祈りをしてあげる習慣があります。最近みなさんは子供たちにどんな言葉をよく使っていると思いますか。子供たちに最近どう聞いたのか聞いて見ることも良いかも知れません。

実は良い話を子供によく話すことも必要ですが、反面子供の耳に傾けるといことも言葉使いの中でもかけてはいけない姿勢でしょう。

* 上手な子供のしつけ方法 *

①「しなさい」より、「しようね！」(子どもが納得できるように提案する)

②「しないでね」前に、「してね」(子どもが否定されるいやな思いとならず、具体的にやってほしい行動内容を伝える)

③「やらなかったことを叱る」前に、「できたことを褒める」(子どもがばれなければいいやというきもちが芽生えないように、自主的にやる気を持って動くように)

④大きな声ではなく、出来るだけ落ち着いた声で(出来るだけ落ち着いた状態で話せるように、目で見て話すようにする)

<こんな時には叱っても良いのでは>

* 危険なこと(刃物や火遊ぶなど)をした場合(命がかかわるような危険なことをした場合・叱る時その場で、なぜいけないことだったのかしっかり伝える)

* 大切な約束を守らなかった場合(しかし、しつけだからと、どんなことでも約束をして、守れないからと叱ってばかりいる状態にはならないように気を付ける)

しつけには愛情をもって根気強く、根気と体力が必要です。みんなこどもそれぞれに合った方法があるので、愛情を持って丁寧にしつけをしていくようにしましょう。

③ 愛の言葉:一緒に忠実な時間を過ごすこと

多くの子供たちは親に十分にかまってもらうことを望みます。実際、子供が見せる困った行動のほとんどは、親の注意を引こうとする表れであることを覚えなければなりません。

今日イエス様はお忙しい中、だれでも子どもが自分に来ることを止めてはいけないと強く言われました。つまり、お忙しい中でもイエス様は子供たちと忠実な時間を共に過ごして下さいました。もちろん、長い時間を子供たちと過ごしたいけれども、忙しい親や大人にとってはそれがなかなかできないかも知れません。しかし、短くても、一緒に忠実な時間を過ごすことで子供には十分に愛を伝えることができます。忠実した時間とは、相手だけに集中した時間のことです。子供に100%自分の注意を向けてあげることです。我々の問題は子供が成長するにつれ、そのような時間を過ごすことはだんだん難しくなっているということです。

みなさん、忠実した時間で一番重要な要素は、何をするかということよりも、何かを一緒にしている、一緒にいるということです。

子供と一緒に例え、一対一二人でモーニングとか、デートとか、ショッピングでも良いかも知れません。みなさんは忙しい中でも子どもと忠実な時間をよく作っているでしょうか。

これ以外にもお贈り物や必要な手伝いをするなども愛が伝わる方法の一つにもなりますが、自分の子供はどんな方法を求め、よく愛が伝わって来るかをまず知り、実行する親、大人のみなさんになって下さい。

<4. 子どもの価値>(The value of a Child)

子どもに対して親も子供たちに感謝の気持ちを伝える必要があると思います。(Have an attitude of thankfulness)
通常子どもたちが自分を生んでくれた、育ててくれた親に感謝しつつ、親孝行すべきだと考えるべきであることはよく学ばれました。しかし、親も自分のこどもの存在に感謝すべきであることを教えて下さっています(詩篇139:13-16)。
子どもごころは親のおかげで子どもたちが生きますが、いつの間にかその子どもの存在のおかげで、親は生きていることになるのではないのでしょうか。こどもとともにいる親のみなさんにもし自分の子供たちがいなくなると、どう生きることができると思いますか。決して考えられることではないのでしょうか。

子どもは独自の人格、才能や能力、肉体的特長を持ったユニークな存在であり、そのことはただ単純に感謝できることではないのでしょうか。子どもは一人一人が特別なのです。完璧な子どもは一人もいません。すべての子どもは神様からの価値ある贈り物なのです。

イエス様は神の国を受け入れる者がいったいどういう人なのか。どんな信仰を持たなければならないのか一番この世の中で御国に入れる見本のような存在として主は子供たちのような存在のようにならないことを示して下さいます。ですから、神の国に子供たちがいかに大切な存在なのか分かりません。聖書をよく読んでみると、ヨセフ、モーセ、サムエル、ダビデなどほとんどの素晴らしい信仰の人物たちの子供ごころのお話が記されて、子供のごころからだとしても信仰をしっかり持っていたことがわかります。そして、神様がほとんど子供の時から彼らの人生の中で神様の目的を成し遂げられるために用いられていたことがわかります。

今日の御言葉は子供ごころはただ大人になっていくための過程で通り過ぎる段階ぐらいじゃないと教えています。人間の人生の中で、子供の時こそ一番神様を純粋に信じられる時であり、一番単純に御言葉に従順できる時であり、自分の間違いをすぐ認め、思いなおし、切り替えることができる！存在です。ですから、子供の時がとても大切なのです。イエス様はこういわれました。

「また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、私を受け入れるのです。あなた方は、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。(マタイの福音書18章5,10節)」

ですから、子どもは支配される所有物ではなく、価値ある人格と器として神様によって造られました(詩篇139:13-16)。
【それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。:14 私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさせて恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。:15 私がひそかに造られ、地の深い所で仕組(しく)まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。】
神様は私たちに子供を贈り物として与え、委ねられました。聖書では、子どもたちは神様からのお贈り物であり祝福であると言っています(詩篇127:3:【見よ。子どもたちは主の賜物】)

ですから、私たち家庭の、神の家族の親は、神様から子どもを育てる特権を与えられているのです。誰一人として同じ子どもがいないように、それぞれの子どもは、母親のお腹の中にいる時から違った個性を持っているのです。ですから、同じ親から生まれた双子だとしても違いがかならず違いがあるでしょう。神様は子供たち一人一人をご存知で、それぞれの子どもにご計画をもっておられます(詩篇139:13-16参照)。自分の子供のユニークな価値を認識するべきです。

<メッセージをまとめて終わらしましょう。>

子どもたちは求めています～温かいまなざしと、はげましの言葉と、あなたの微笑みと、すべてを受け止めてくれる大きな心を～子どもは、大人に優しく声をかけられ、自分は本当に価値ある存在、必要である存在なのを言われたい、そう褒めてくれるのを待っています。しかし幼く、寂しさを感じていること、一人心中で悩んでいることや自分の寂しさなどを上手に表現できません。

愛されたい思いを受け取ってほしいと、大人へのサインを必死で送っていることにみなさんは今日もよく気づいていますか。

そして、子どもたちのみなさん！みなさんは価値のある特別な存在であることを忘れないで下さい。神様は決して失敗しない方です。子ども一人一人がいろいろな違いがあるのはそのように自身であるように神によってデザインされたそれぞれの尊い目的、計画があつて意図的に造られたという意味があるからなのです。誰一人同じ人間として造られた人はいません。みなさんにしかないユニークな存在です。ですから、子どもたちであるみなさんは他の人と自分を比較する意味がありません。劣等感に捕らわれたりしないでください。今の自分が自分すべてではないと信じて下さい。みなさんの将来は親であるわれわれより明るく、さらに祝福され、用いられ、幸せになると信じ、祝福します。ですから、神様から離れず、いつも変わらない主の御言葉を自分の近くにして置いてください。祝福の源であられる神様と神の御言葉の祝福の約束、知恵と信仰がすべてみなさんのものとなって、将来この日本と世界中で尊く、大いに用いられる信仰の英雄たちとなりますように2020年子供祝福礼拝にみなさんの姿、存在に感謝しつつ、主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

(共に愛する子どもたちの祝福の為祈りましょう！！)